

令和5年カテーテルアブレーションの 急性期成績と安全性 ～脳梗塞予防への取り組み～

静岡市立静岡病院  循環器内科


アブレーションチーム

川人 充知、服部 雄介、石川 恵理、中川 拓哉、瀧 健、山田 健

LAAO/TEEチーム

川人 充知、徳増 芳則、三竹 啓嗣、中嶋 敦生、中川 拓哉、小嶋瑛璃子

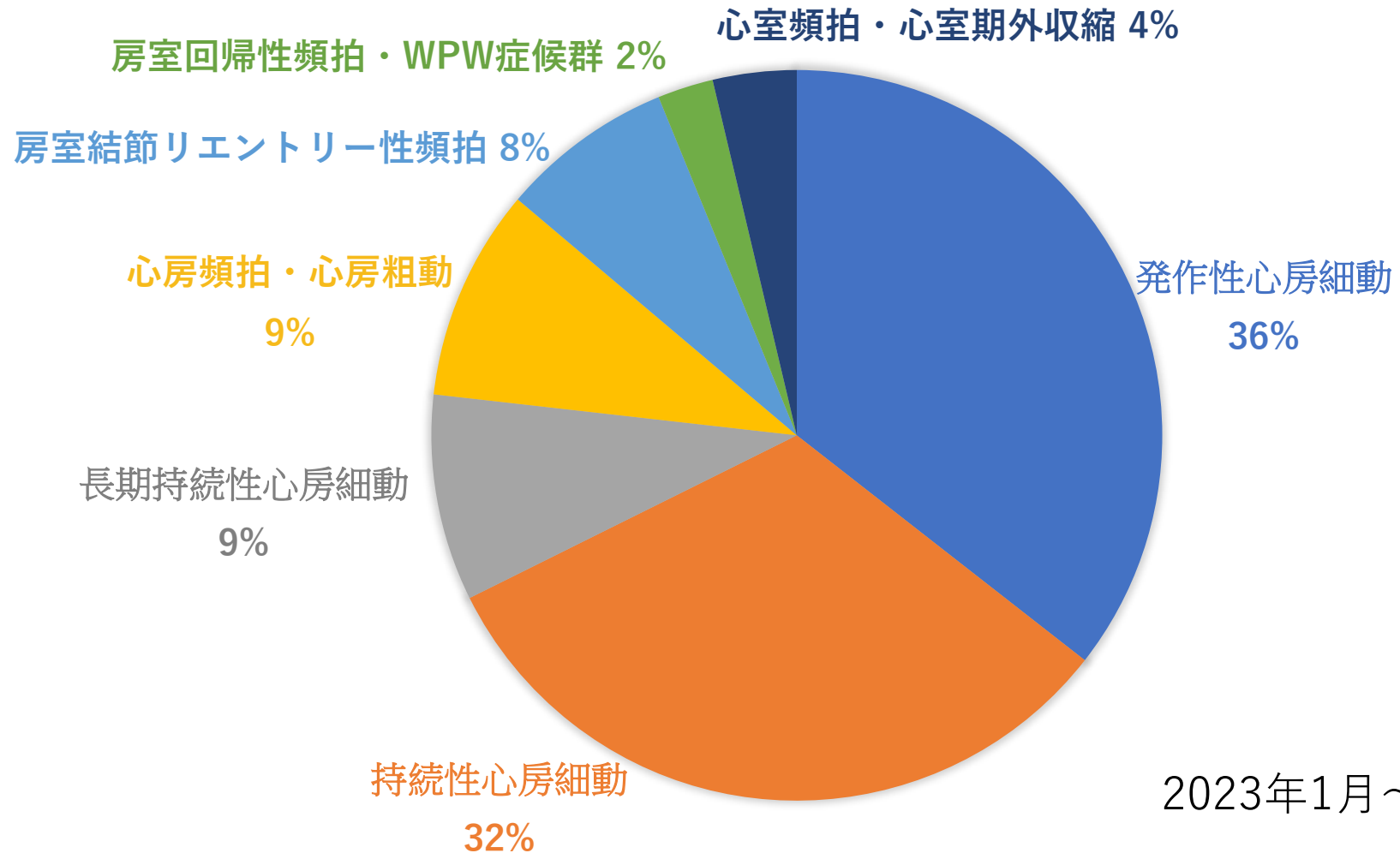
はじめに

- 高齢化に伴い心不全や心房細動を始めとする不整脈疾患が増加傾向である
- 「脳卒中と循環器病克服第二次5カ年計画」に対応する
～ストップCVD(脳心血管病)～
- 当科は不整脈に対するカテーテルアブレーションを安全性と成績向上に向けて積極的、持続的に取り組んでいる
- 脳梗塞の一次予防、二次予防に対して取り組む
- 不整脈に関連する心不全の包括的・全人的ケアに取り組む
～多職種ハートケアチーム SCSH-HCT での活動～
- 地域で心房細動のマネジメントに取り組む
静岡市心房細動連携ネットワークを構築している

令和5年1月～12月アブレーション

- 症例数 405 例
- 年齢 65 ± 12 歳 (16～86)
- 男女比 260 (64%) : 145 (36%)
- 初発例 348 例 (86%)
- 再発例 57 例 (14%)
- 手技 高周波 262 例 (65%)
冷凍(Cryo) 143 例 (35%)
- 初期成功率 99 % (401/405)
- 周術期合併症 0.7 % (3/405)

アブレーション対象疾患



2023年1月～12月 n=405

アブレーション手技

	全症例	デバイス別		p 値
		高周波	クライオ	
手技時間 ^{*1} , 分 (median)	110	114	93	< 0.0001
透視時間, 分 (median)	20	20	25	< 0.0001
面積線量値, dGycm ²	44±42	40±44	51±37	0.015
表面吸収線量, mGy	48±48	45±53	55±35	0.063
造影剤使用量, ml	4±6	1±5	8±5	< 0.0001

(*1 skin to skin time)

(n = 374、CAG施行例除外)

アブレーション合併症

	内訳	症例数 (%)
周術期合併症	輸血や手術を要する出血、血腫	0 (0)
	心タンポナーデ (保存治療で軽快)	1 (0.25)
	症候性脳梗塞	0 (0)
	永続性横隔神経麻痺	0 (0)
	徐脈によるペースメーカー (術前SSS例除く)	0 (0)
	急性麻痺性胃拡張 (保存治療で軽快)	1 (0.25)
	アナフィラキシー (ステロイドで軽快)	1 (0.25)
	手技に関連する死亡	0 (0)
	合計 (患者ベース)	3 (0.74)

その他、脳卒中予防の取り組み

1. ブレイン・ハートカンファレンス
脳神経外科、心臓血管外科、循環器内科で脳卒中に対して共闘
二次予防に向けたフローチャート作成
2. 心エコー図検査 ～左心耳血栓や奇異性塞栓の検出～
経食道心エコー (2D, 3D) 146例 (2023年)
経胸壁マイクロバブルエコー 11例 (2023年)
3. 長時間心電図 ～潜在性心房細動の検出～
 - ・ 植込み型ループ心電計 (ICM)
 - ・ 簡易心電計 (Omron)の貸出し
 - ・ パッチ型長時間：Heartnote (1week)、フクダeMEMO (2week)
4. 経カテーテル的左心耳閉鎖術 (WATCHMAN™)
現在まで 5例 (初期成功率 100%)
5. 静岡市地域連携パス (医師会と連携)
AF連携ネットワーク 登録患者数 2069例 (2024.01現在)



WATCHMANFLX™
LEFT ATRIAL APPENDAGE CLOSURE DEVICE

まとめ

- 2023年カテーテルアブレーション405例
- その4分の3が心房細動
- 高齢者も含めて重篤な合併症なく、高い初期成功率で手技を施行できた
- アブレーション以外の脳卒中関連の対策も継続的に取り組んでいく
- 各科医師、コメディカルスタッフのご協力に感謝する